

地域に役立つ人材の育成を目指して

高校生介護等体験特別事業

霧島
市立

国分中央 高等学校



霧島市立国分中央高等学校は、明治39年「精華学校」として設立され、創立103年の歴史と伝統を誇る学校です。現在、園芸工学科・生活文化科・商業科・情報会計科の4学科、885名の生徒が「至誠・自律・敬愛」の校訓のもと、日々勉強やスポーツに取り組んでいます。本年度から3年間、県社会福祉協議会の「高校生介護等体験特別事業」指定校として、福祉ボランティア活動を体験し、福祉マインドや社会連帯感をはぐくむため、生活文化科を中心に取り組むことになりました。

■ベッドや車椅子を使った介護体験

この事業を効果的に推進するために、学科の選定や年間計画、訪問する福祉施設、留意点等を事前学習し、家庭看護・福祉の授業を通して基本的な介護技術を学んでいます。

昨年12月に、鹿児島医療福祉専門学校の中森美恵子先生の「介護福祉講演会」を開催し、現在の福祉施設や介護の現状について学びました。

また、1月には生活文化科の3年生を対象に「健康生活支援講習」を開催し、日本赤十字社県支部及び鹿児島赤十字病院から講師を招き、ベッドや車椅子を使った身体介護の心構えを学習し、介護体験をしました。

参加した田崎綾乃さんと河野百合恵さんは、「初めての介護体験で考えていたよりも難しく、介護は実際に体験しないとわからないことが多く勉強になりました。今後は専門学校に進学し、社会に役立つ仕事をします。」と力強く話してくれました。



ベッド・車椅子を使った介護体験



緑のカーテン事業



薬物追放街頭キャンペーン



縄文の森でのパフォーマンス

■緑のカーテン事業に参画

園芸工学科では、園芸に関する知識や技術を学んでいます。授業で学んだことを生かし、5月に霧島市シビックセンターで開かれた「緑のカーテン」事業研修会にボランティアとして参加し、地球温暖化対策の一翼を担うことができました。

この事業は、つる性の植物を植え、直射日光による室内の温度上昇を抑制する事業で、苗の植え方・育て方、ネットの張り方等の説明をしたり、生徒が育てたニガウリ、ヘチマ、キュウリの苗を参加者に配布したりして多くの市民に喜ばれました。

■介護老人保健施設等での介護体験

ボランティア部員23名は、地域の行事や清掃活動に積極的に参加しています。5月の上野原縄文の森春祭りでは、運営ボランティアとして参加し、子ども達の製作活動を支援しました。

主なボランティア活動として、移動博物館ボランティア、海岸清掃、薬物追放キャンペーン、介護老人保健施設での介護体験、地区社会福祉協議会での活動発表等を行いました。また、ダンス部は、全国のダンスフェスティバルに連続4回出場しています。この結果が生徒達の自信となり、様々な地域行事にボランティア出演しています。

生徒達の躍動感あふれる演技は、市民にも好評で「元気をもらった」、「感動した」など多くの激励の言葉をいただいています。

本校は今後も様々な教育活動の中で介護体験等を通じた福祉教育を継続的に取り組んでまいります。